
MAKING THE IMAGE INTELLIGENT



2026年3月期

決算説明会

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル

2026年5月15日

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。



1 2026年3月期 決算説明

2 2027年3月期 通期業績予想

3 成長戦略・ビジョン



1 2026年3月期 決算説明

2 2027年3月期 通期業績予想

3 成長戦略・ビジョン

世界有数のグラフィックスIPベンダーとしての創業以来の経験・知見を活かし、近年は**アルゴリズム・ソフトウェアからハードウェア**、並びに**エッジからクラウド**に亘る一貫したAIサービスの提供により、お客様や社会の課題解決に貢献しています

会社名	株式会社デジタルメディアプロフェッショナル (DMP)
設立	2002年7月 (2011年6月東証マザーズ上場, 2022年4月東証グロース移行)
所在地	東京都中野区
代表者	代表取締役会長兼社長CEO 山本 達夫
資本金	1,838百万円
従業員数	50名 (2026年4月1日現在)
特許数	36件

IPコアライセンス事業

- AI/GPU IPコアライセンス
- AIソフトウェアライセンス



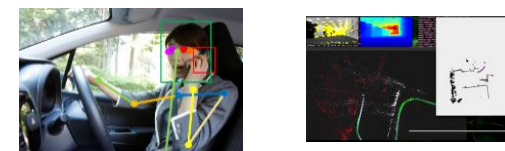
製品事業

- アミューズメント市場向け画像処理半導体
- エッジAI半導体
- 協働ロボット向けビジョンシステム
- FA製品 (AMR本体/コンポーネント)
- モジュール



プロフェッショナルサービス事業

- AIアルゴリズム、コンピュータビジョンソフトウェア受託開発
- FPGA/ボード受託開発
- ロボティクス・セーフティに係る顧客製品・サービス開発サポート



- 次世代エッジAI半導体「Di1」の量産準備が完了し、顧客評価フェーズが着実に進捗
- ロボティクス/セーフティ分野(FA事業含む)は伸長し、事業ポートフォリオの多角化が進展
- アミューズメント分野では、特にパチスロの保通協検定適合率が低調に推移していることを主要因として、主力製品「RS1」の出荷が一時的に弱含みとなり、前期比で大きく減収

全社	事業別売上高	分野別売上高
売上高	IPコアライセンス	ロボティクス / セーフティ
2,432 百万円 (YoY※ Δ 21.0%)	139 百万円 (YoY +12%)	281 百万円 (YoY 36%)
経常利益	製品	アミューズメント
Δ 293 百万円 (YoY Δ 561百万円)	2,218 百万円 (YoY Δ 22%)	1,951 百万円 (YoY Δ 30%)
	プロフェッショナルサービス	その他
	74 百万円 (YoY Δ 24%)	199 百万円 (YoY +120%)

※ YoY (Year on Year) : 前年同期比

「Di1」の戦略投資(3億円)を実行、アミューズメント市場の調整局面影響もあり、営業赤字となるも、財務健全性維持

(単位：百万円)	2025年3月期	2026年3月期	増減額
売上高	3,077	2,432	△644
営業利益	261	△311	△572
経常利益	267	△293	△561
当期純利益	153	△327	△481

- **戦略的投資の実行**：エッジAI半導体「Di1」の開発費3億円を計画通り支出、来期以降の成長に向けた基盤を確立
- **アミューズメント市場の調整による影響**：検定適合率低調を受け、画像処理半導体「RS1」出荷が抑制され前期比減収の主要因となった
- **利益面**：戦略投資負担と、売上減少により営業利益以下、各段階利益で赤字を計上

● 事業別売上高

IPコアライセンス事業 139百万円 前年同期 124百万円

- AI-IPの初期ライセンス提供に加え、デジタル機器向けAI/GPUランニングロイヤリティ、ロボティクス・セーフティ分野におけるリカーリング収益、並びにメンテナンス・サポート収入等を計上

製品事業 2,218百万円 前年同期 2,855百万円

- RS1の量産出荷、Cambrianビジョンシステム、ドローン向けカメラモジュール、FA製品等の売上を計上
- アミューズメント市場の一時的調整により、RS1の量産出荷は前年同期比30%減

プロフェッショナルサービス事業 74百万円 前年同期 97百万円

- 半導体製造設備、安全運転支援、AMR向け受託開発サービス収入等を計上

● 分野別売上高

ロボティクス・セーフティ分野 281百万円 前年同期 207百万円

- ドライブレコーダー関連のリカーリング収益（ランニングロイヤリティ、サブスクリプションフィー）、メンテナンスサポート収入、Cambrianビジョンシステム、ドローン向けカメラモジュール、FA製品等の製品売上、並びに半導体製造装置向け、安全運転支援向け、AMR向けへのプロフェッショナルサービス売上を計上

アミューズメント分野 1,951百万円 前年同期 2,779百万円

- 主にRS1の量産出荷売上を計上

その他分野 199百万円 前年同期 90百万円

- IPコアライセンス事業におけるデジタル機器向けAI/GPUランニングロイヤリティ、メンテナンスサポート収入、一部製品売上等を計上

自己資本比率は85.3%と高水準を維持 ～戦略的投資を可能にする強固な財務体質～

(単位：百万円)		2025年 3月末	2026年 3月末	増減額	主な増減要因
流動資産	3,277	2,790	△487	現預金 △714 原材料及び貯蔵品 +248	
固定資産	800	1,041	+240	有形固定資産 +27 無形固定資産 +36 投資有価証券 +171	
資産合計	4,078	3,831	△247		
流動負債	465	537	+72	買掛金 +153 未払金 △59 未払消費税等 △6 未払法人税等 △19	
固定負債	18	27	+8		
負債合計	484	564	+80		
純資産合計	3,594	3,266	△328	利益剰余金 △327	
負債・純資産合計	4,078	3,831	△247		



1 2026年3月期 決算説明

2 2027年3月期 通期業績予想

3 成長戦略・ビジョン

2027年3月期は、 収益・利益の改善と同時に、研究開発や人材の積極採用など戦略的投資を推進

(単位：百万円)	2026年3月期 通期実績	2027年3月期	
		通期予想	増減
売上高	2,432	3,640	+1,207(+49.6%)
営業利益	△311	30	+341
経常利益	△293	45	+338
当期純利益	△327	30	+357

- アミューズメント事業でのRS1の量産拡大・周辺ビジネスの取り込みによる安定的収益の確保とともに、成長領域であるエッジAI半導体事業およびロボティクス・セーフティ事業の拡大の取り組みにより、売上高は大幅増収を見込む
- エッジAI半導体 Di1の量産案件獲得への注力、ロボティクス・セーフティ事業でのDi1を統合した高付加価値ソリューションの開発・提供など、研究開発・人材採用を中心とした戦略的投資を継続実行
- 中期的には、アミューズメント市場の更なる取り込みに加え、エッジAI半導体事業とFA事業の2本の成長エンジンにより、収益拡大、企業価値向上を目指す



1 2026年3月期 決算説明

2 2027年3月期 通期業績予想

3 成長戦略・ビジョン

PURPOSE

パーパス

Making the Image Intelligent

画像を智能化する

画像インテリジェンスの力で現実世界の問題を解決し、ステークホルダーに価値をもたらす革新的な製品とサービスを創造する

To develop cutting-edge products and services that leverage image intelligence to address practical challenges and deliver value to our stakeholders.

パラダイムシフト

生成AI: クラウド上でのテキスト・画像生成から現実世界を動かすAIへ

Physical AI: ロボティクス、ドローン等の物理的な「動き」への実装が急拡大

エッジAI需要を牽引する4つの鍵

REAL-TIME VISION

衝突回避や自律飛行はミリ秒単位の判断。

SECURITY

機密性の高い現場データを外部に出さない「エッジ完結型」。

TRUSTED SILICON

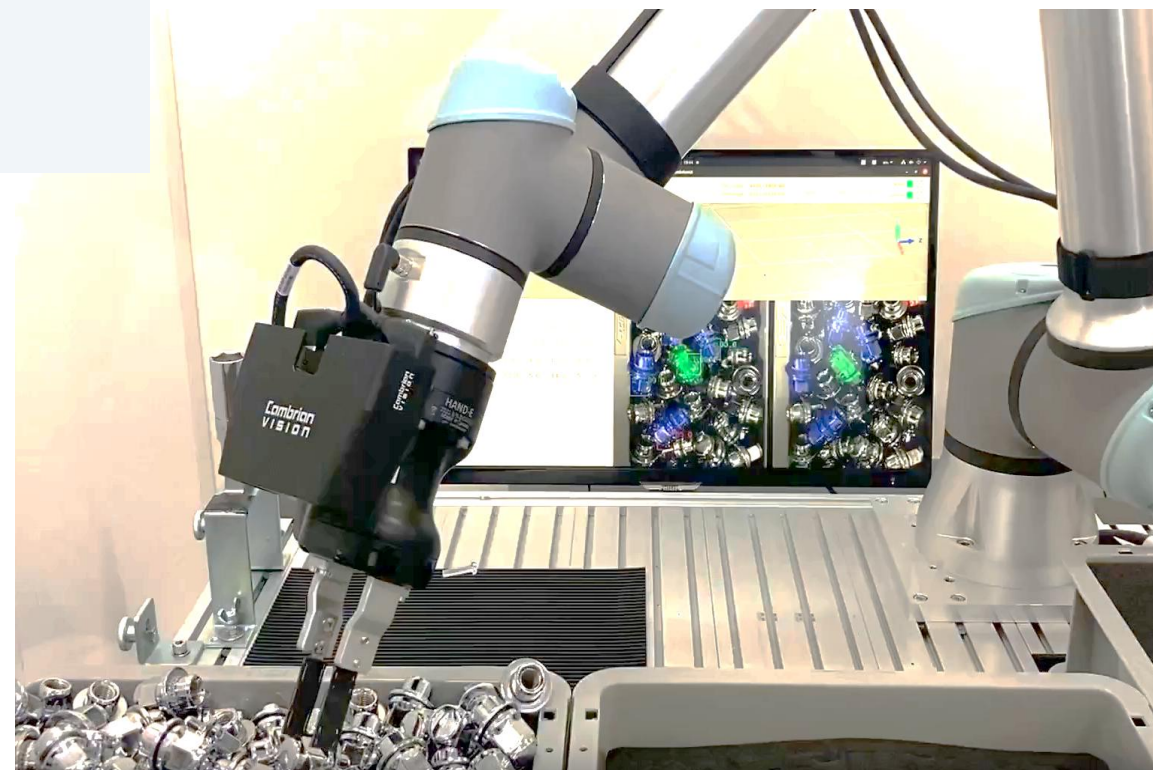
地政学リスクを背景とした日本発SoCへの期待。

EFFICIENCY

通信コスト削減と低消費電力での高度な推論の両立。

DMPの適合性

DMPはこれらの要求をすべて満たす「Di1」を軸に、Physical AIの中の重要な役割を担う



生成AIの波は現実世界（Physical）へ波及し、エッジ側でのリアルタイム処理と信頼性が不可欠な時代が到来

Graphics→Vision→AI→Physical AI”という進化ストーリーを加速
現実世界を「見て、理解し、動かす」ためのEdge Intelligenceを実現

独自技術と統合力 (Integration Power)

01 GPU & NPU(AI)

低省電力・高性能な画像処理とVision技術
業界初FP4対応による圧倒的な推論効率を実現

02 Stereo Vision

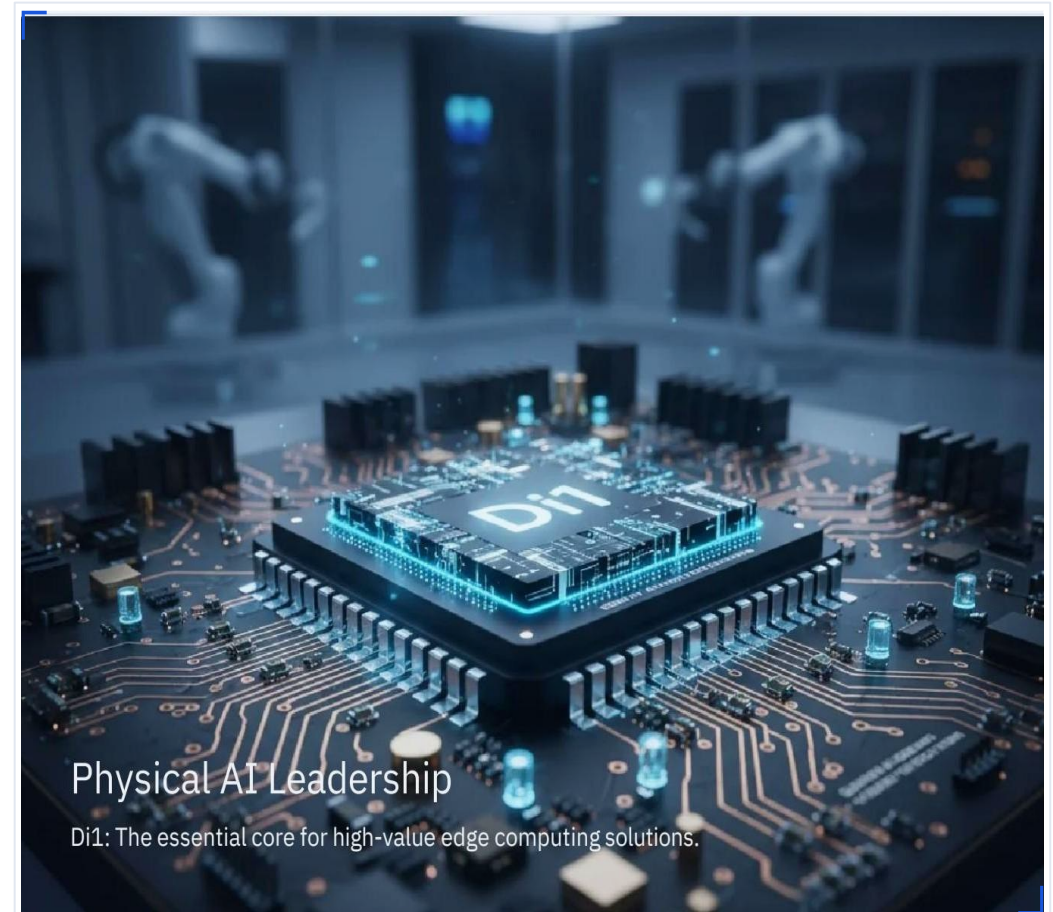
低消費電力で360°空間認識を実現するPhysical AI向け
Stereo Vision

03 Software

ZIA SAFE, ANPR (ナンバープレート認識) など、
実績のあるAIソフトウェア製品群

DMPの戦略的位置づけ

DMPはハード・ソフト・アルゴリズムを一体で提供し、*Physical AI*の
実装を最短距離で実現するプラットフォーム企業へ



FY25は、Di1の量産レベル完成と海外市場への進出により開発ステージからビジネス実装へと大きく進んだ一年

1. テクノロジーの実証

- Di1量産レベル達成：CS評価を完了し「一発完動」を実現。SoCとしての高い信頼性を証明。
- SDK整備：顧客が容易にAI実装を行える開発環境をアップデート。導入障壁を大幅に低減。

2. グローバル戦略の第一歩としてインドでのビジネスが進展

MOU SIGNED

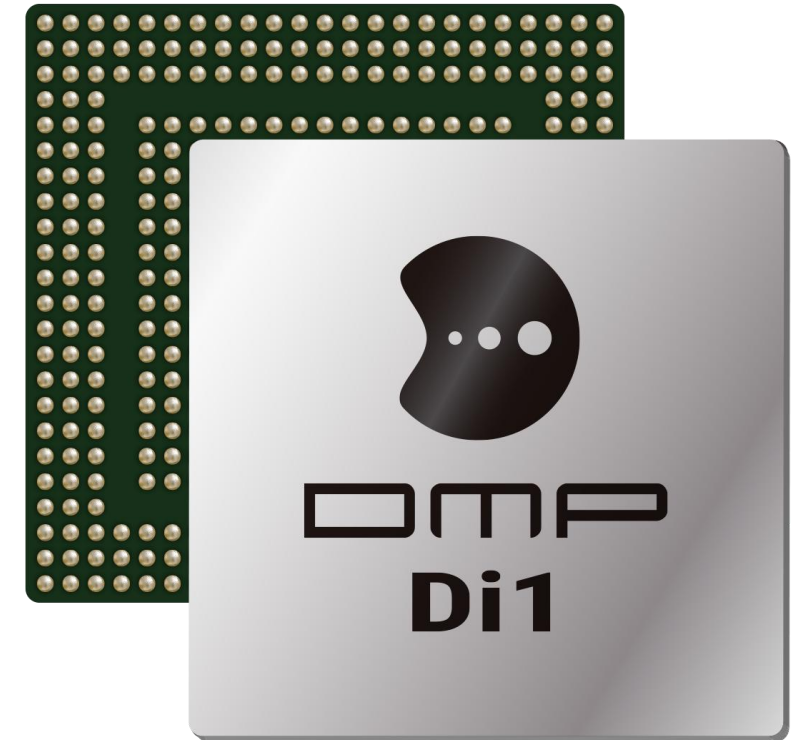
Sparsh CCTV

次世代エッジAIカメラの共同開発

STRATEGIC ALLIANCE

ideaForge

防衛・産業用途ドローンへのDi1搭載



「AI + Vision + Stereo」の1チップ統合と、日本発のクリーンなサプライチェーンが 競合に対する優位性に

システム統合

ISP + NPU + ステレオビジョン + コーデックを1チップに統合。外部アクセラレータ不要で、基板の小型化とコスト削減を実現。

360度全方位の「目」

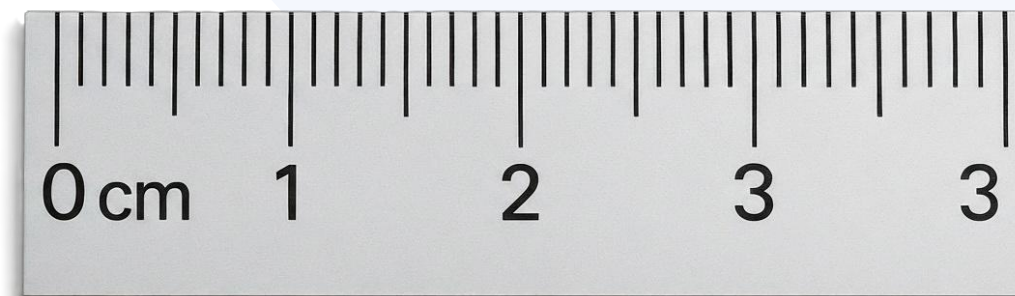
4ch Stereo: 自社設計エンジンにより、LiDAR不要で高精度な3D距離測定が可能。軽量化とコストダウンの切り札。

世界初* FP4対応の高効率

低メモリ・低電力で高速なAI推論を実現。バッテリー駆動のドローンやAMRにおいて、稼働時間の延長に直結する電力性能効率を提供。

高度なセキュリティーと信頼の「Made in Japan」

地政学リスクを回避した供給体制。Secure Boot、高度なデータ保護、及びブロックチェーンをサポート。



クラウド依存からエッジ処理へ
インドのカメラ大手SparshがDi1で次世代CCTV市場を攻略

⚙️ 「Cloud AI → Edge AI」への潮流

通信遅延の解消、通信コストの劇的削減、プライバシー保護の観点から、カメラ端末側でのAI処理（エッジ解析）が世界的な標準へ。

🤝 高成長するインド市場： Sparsh CCTV協業

インド有カメラメーカーSparsh社と次世代エッジAIカメラを共同開発。
量産を視野に試作開発が進行中。

初年度5万台、3年目には数十万台規模の出荷を目指す。

🚗 ANPR（自動ナンバープレート認識）ソリューション

スマートシティ、交通インフラ、駐車場管理、高速道路等での需要が急増。



インドローン最大手 ideaForge社の次世代ドローンにDi1が採用される
ideaForgeのドローンの日本市場への展開を含めた包括的な提携

技術統合

ideaForgeのVTOLプラットフォームに、DMP Di1を搭載。
本体での高度な視覚センシングとリアルタイム処理を実現。

市場展開

- DMPがideaForge製ドローンの日本国内における販売、デモンストレーション、アフターサービスを行う。
- 地域最適化: 日本の法規制や顧客ニーズに合わせた機体カスタマイズを推進。



Di1が提供する価値

360度ステレオビジョン:

複雑な地形や過酷な環境下での自律飛行・障害物回避を実現

低消費電力:

長時間のミッション遂行を可能にする電力効率

Trusted Silicon:

地政学リスクを受けにくい「日本発SoC」の信頼性

ドローンは単なる飛行カメラから、エッジAIによる自律的な「インテリジェント・エージェント」へと進化

MARKET PROJECTION 2030 (※)

1,176 億ドル

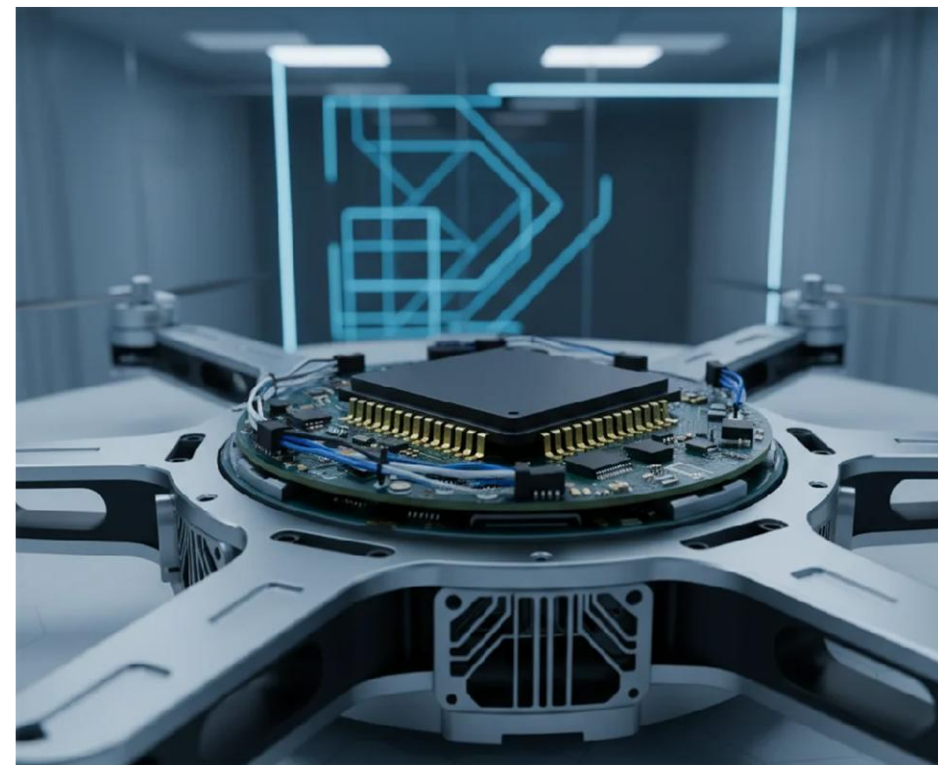
業界を牽引する2つの潮流

01 エッジAIによる自律性の向上

機体上でのリアルタイム処理へ移行し、通信遅延を排除。
GPSの届かない環境下でも障害物回避やルート最適化が可能に。

02 サプライチェーンの信頼性

中国製からの置き換え需要が急増し、「信頼できる技術」へのシフトが加速。



(※) Next Move Strategy Consulting調べ

半導体工場や物流自動化の課題を、プロフェッショナルサービスを起点に解決
現場主導で高付加価値なAI実装を、標準パッケージ化し推進

- 物流自動化大手と連携し、半導体工場の搬送・物流自動化プロジェクトへ取り組み中。
- AIソフトウェア・ハードウェアの標準パッケージ化と量産対応システムへの展開を通じて、ストック型収益への転換を目指す。

Solution Package

カメラ x AI画像認識 x 組み込みソフトの標準パッケージ化



「部品単体」ではなく“AMRトータルソリューション”を展開
世界的に競争力のあるパートナーと連携し成長が期待されるフィジカルAI領域に投資し共に成長する

FY2025ハイライト：AMRソリューションがTier1メーカーに採用される。
2028年度に向けた量産ラインの採用も確定。

■ 競争優位性

- 海外最先端FA製品のローカライズ展開で日本市場に最適化
- 国際安全規格ISO 3691-4 準拠へ対応（SEER）、本番導入を実現する信頼性

■ 今後の展望

- DMPのAI製品やAI技術との相乗効果でフィジカルAI領域のビジネスを加速
- idea Forge Drones製高性能ドローンをラインナップに加え広いニーズに対応

SEER
ROBOTICS



Kinco



MINSO



より高度なPhysicalAI向け次世代IP群を開発、Di1後継製品への搭載と国内外特定用途向け半導体顧客向けにライセンスビジネスを展開

PROJECT 01 次世代 NPU IPの開発

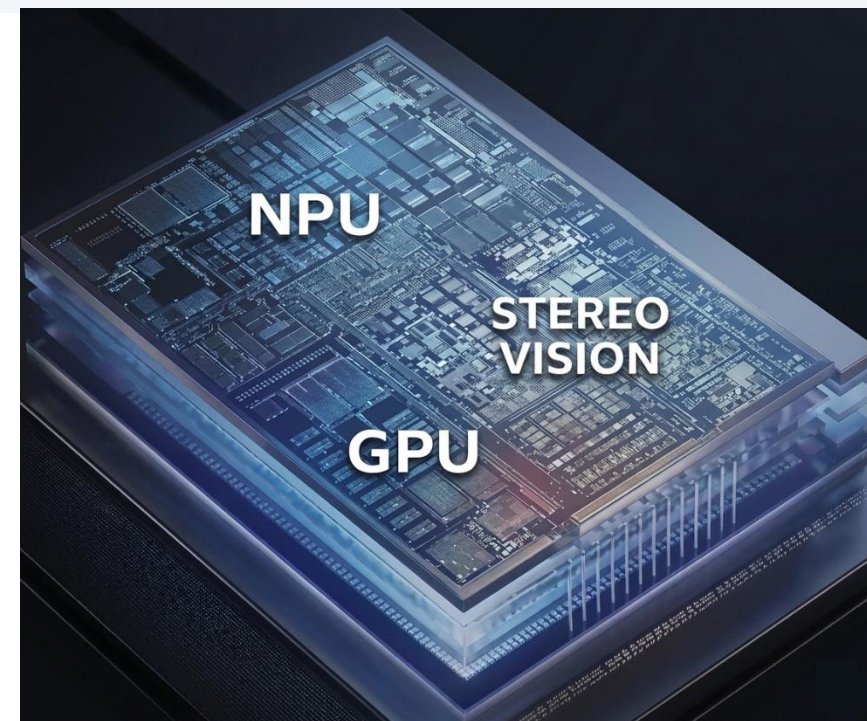
AI処理性能を大幅に向上し、より高度なAI推論と拡張性を備えたフラッグシップIP。国内外の大手複数社で評価が進行中。

PROJECT 02 次世代Stereo Vision Engine

現行世代比で大幅なステレオ性能向上を達成。大手海外顧客からライセンス受注済。

PROJECT 03 AIステレオキャリブレーション技術

物理的なステレオキャリブレーションをAIで代替。導入コストを削減し、AMRやドローンの量産普及を技術面から支える独自技術。



2026年6月 東京流通センター内に開設。単なる展示場ではなくPhysical AI実装拠点として機能

■ 実機デモによる「体験型」提案

FA製品、AMR、ドローン、エッジAIカメラの稼働展示
課題解決を具体化

■ パートナー、顧客企業との共同検証、トレーニング

SEERやKinco等とDMP技術の統合
エコシステム全体の力を示すショーケース

■ アクセス

羽田空港近接の立地を活かし、顧客・パートナーとの連携強化



東京ロボティクスイノベーションセンター（完成イメージ図）

SoCを核とした「ソフト・サービス・ストック型」への進化と、ソリューションビジネスの強化で、収益の最大化と持続的な成長を実現する。



SoCを起点とした 付加価値の拡大

01

SoCを顧客接点のフック（起点）とし、その上位レイヤーであるモジュール、ソフトウェアへと提供範囲を広げます。

- ＞ 提供レイヤーの垂直統合
- ＞ IPライセンスの高度化



収益の最大化と ストック型への転換

02

ソフトウェアとサービスを組み合わせ、従来の売り切り型から継続的な利益を生む「ストック型」へとシフトします。

- ＞ リカーリング収益の基盤構築
- ＞ 高利益率ソフトウェアの展開



ソリューションビジネスの強化

03

テクノロジー製品・サービスとFA製品を融合させ、顧客課題を解決する包括的価値を提供します。

- ＞ FA製品×テクノロジーの融合
- ＞ 顧客中心のエコシステム構築

Physical AI時代の「Edge Intelligence Platform Company」へと進化

成長分野への展開：エッジAI半導体事業

コア事業で培った強み、ノウハウを活かした、新たな分野での半導体ビジネスを展開
モビリティ、スマートファクトリー、ドローン、スマートカメラなどの高成長市場で採用拡大

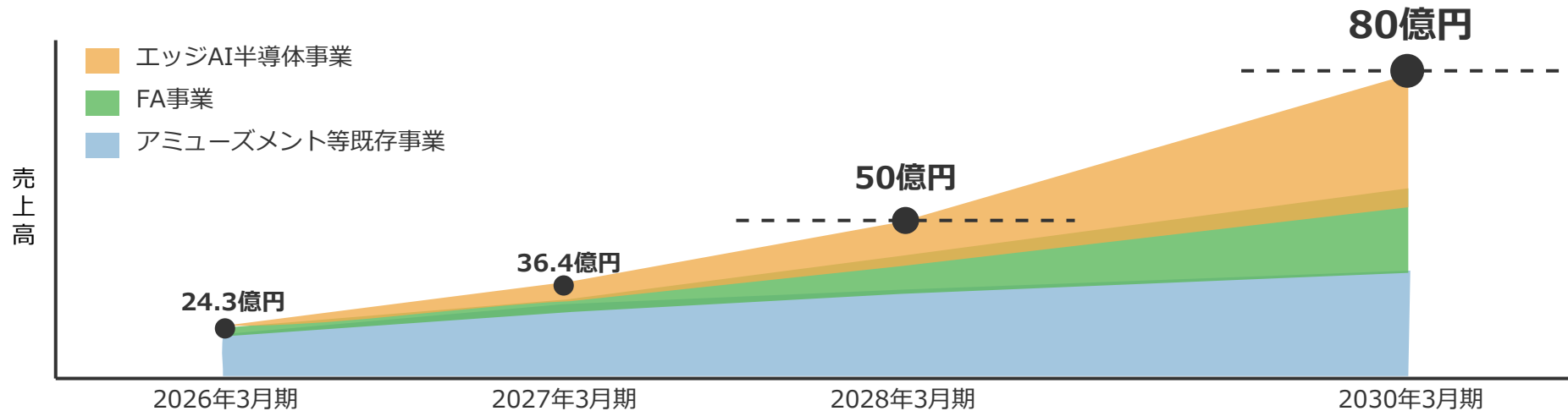
中長期的な
企業価値向上

新規事業機会の獲得：FA事業

当社の更なる成長実現のため、新事業領域に取り組む
Cambrian Vision Systemで築いた業界ネットワークを生かし、ロボティクス、ファクトリーオートメーション、物流自動化のさらなるスマート化により、日本の社会課題解決に貢献

コア事業の更なる成長：アミューズメント事業

周辺ビジネスの取り込みによる付加価値増大とコスト低減などによる利益の強化





Edge Intelligence Platform Company ^

SYSTEM STATUS:
OPERATIONAL CORE
ENGINE: PHYSICAL AI V.2
STRATEGIC ALIGNMENT:
100%

DMPは Making the Image Intelligent のパーパスのもと、
Physical AI時代の「Edge Intelligence Platform Company」へと進化し、
持続的な成長を実現します。

Physical AIの未来を、DMPと共に。

END OF PRESENTATION

<お問い合わせ先>

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル 経営企画部

TEL:03-6454-0450

URL: <https://www.dmprof.com/jp/ir/>

- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがあります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。
- 本資料は、弊社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、弊社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。本資料に全面的に依拠した投資等の判断は差し控え願います。